

# 元気な医院



デンタルタイアップ  
代表

小原 啓子

4月になると、歯科医院も華やかです。新人が入ってくるからです。患者さんからも「あつ、新しい人が入ったんだ」という言葉を頂戴します。

でも、その新人の顔をしっかりと見てあげてください。入ってきた新人が一年も経たないうちに辞めてしまうことが少なくないからです。

就業構造基本調査(平成19年度)によると、日本の初就職時に非正社員として働く女性の割合は54.3%。若い人たちは、正社員として働ける場がないのです。歯科業界は、従業員を基本的には正社員として雇うにもかかわらず、業界から去っていく人は少なくありません。毎年6千〜7千人近い人々が国家資格をとって出てくる歯科衛生士でも同じです。えてはいないでしょうか。新人にそう言

30歳以上の歯科衛生士は復帰組も含めて増加していますが、新人は5年で4割が業界離れを起こします。だから何年経っても「歯科衛生士がいない。誰かいないだろうか」という声を聞き続けます。

## 新人の確かな目

さて、歯科医院では新人の行動を見て、「若い人は、根性がない」「やる気がない」と思っている人はいないでしょうか。その場合、新人の育成方法を誤っている時が少なくありません。「見て覚え

る?」と聞いてみてください。今まで考えたこともなかった良い改善点を見つけてくれます。新人の鋭い目は3カ月程しか機能しません。宝の情報を持つ人としましょう。

う前に、歯科医院のマニユアルを作りましょう。それぞれのやり方に微妙な差があれば、その違いが新人に混乱を招きます。「誰の言うことに合わせればいいのか」。そんな小さなトラブルの積み重ねが新人の芽を摘むこととなります。私は仕事の基本となる物がなければ、新人とともにマニユアルを作ることをお勧めしています。

新人には、確かな目があります。医療従事者としての目と、患者さんとして見られる客観的な目です。「私たちの歯科医院で、これを改善したらもっと動きやすいのになって見えることがあ

(月1回掲載)

